

R S P 事業により蓄積されたシーズの実績

No. 1	H 1 2 年度	佐藤 瀏 (岩手大学工学部 教授)
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 3,3 , 4,4 - テトラメルカプトピフェニルの機能材料への応用		
コーディネート成果： 有用特許(JST)を出願後、開発希望企業を選択し特許の事前開示を行った。企業と連携し実用化を目指している。		
No. 2	H 1 2 年度	成田榮一 (岩手大学工学部 教授)
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 地域未利用資源を活用する高機能木炭の製造		
コーディネート成果： H12年度研究開発支援事業(財団単独)に採択し、H13年度育成試験に繋いだ。使用済みコンクリート用木枠の再利用化に応用し、平成16年に実用化した。		
No. 3	H 1 2 年度	小川 智 (岩手大学工学部 助教授)
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 有機エレクトロクロミックデバイスの開発研究		
コーディネート成果： 研究シーズを調査後に有用特許(JST)を出願した。現在、実用化の受け皿となる企業を選択中である。		
No. 4	H 1 2 年度	八代 仁 (岩手大学工学部 助教授)
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 金型の防食技術の開発		
コーディネート成果： 有用特許(JST)を出願し、H12・H13年度育成試験を実施した。企業に技術移転を図った結果、平成15、16年度に商品化した。		
No. 5	H 1 2 年度	氏名(所属 職名)堀江 皓 (岩手大学工学部・教授)
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 希土類元素を添加した高強度偏状黒鉛鋳鉄、高強度快削性鋳鉄、薄肉球状黒鉛鋳鉄と異種材料との溶接技術		
コーディネート成果： 上記の一連の技術を用いた「高機能鋳鉄を用いた省エネ型高性能自動車エンジン部品の開発」を経済産業省・H13年度即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業に提案した。採択されて、企業4社：(株)日ピス岩手、(株)いすゞキャステック、(株)柴田製作所、(株)ハラチュウ)とともに、開発を実施した。筒吹き可鍛鋳鉄製ピストンリング、薄肉・耐熱・触媒一体型マニホールドなどが関連企業において開発され、実用化しつつある。		

No. 6	H 1 2 年度	中村 満 (岩手大学工学部 助教授)
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 錫浴法による超硬合金リサイクルにおける反応全元素回収技術の開発		
コーディネート成果： H12年度研究開発支援事業、H13年度経済産業省「即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業」に応募し採択された。事業化希望企業を中心として実用化を図りつつある。		

No. 7	H 1 2 年度	道上 修 (岩手大学工学部 教授)
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 酸化物超伝導薄膜用CeO ₂ 保護膜の研究		
コーディネート成果： 本研究は、平成13, 14年度の育成試験に採択され、有用特許2件出願し、更に育成試験より特許3件を出願することができた。また、本研究に関連し、岩手県の中小企業創造活動促進法の認定企業に選定され、スパッタ用のターゲット製作に繋がった。		

No. 8	H 1 2 年度	田山典男 (岩手大学工学部 教授)
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： FMR原理による3次元CT装置の開発		
コーディネート成果： 科学技術振興事業団の平成14年度研究成果最適移転事業(プログラムC)に提案し、採択された。		

No. 9	H 1 2 年度	島地重幸 (岩手大学工学部 教授)
専門分野： 医療・福祉		
研究シーズ： 手操作電動鉗子による腹腔鏡下縫合システムの開発		
コーディネート成果： 本研究は平成12, 13年度育成試験及び平成14年度の研究開発支援事業(財団単独)に採択された。なお、本試験により関連有用特許4件を出願することができた。また、関連企業として、盛岡セイコー株式会社が本研究に参加した。		

No. 10	H 1 2 年度	水野雅裕 (岩手大学工学部 助教授)
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 金型の微細研削・研磨技術の開発		
コーディネート成果： 有用特許(JST)を出願し、H12年度育成試験を実施後、企業に技術移転した。H13年度課題対応技術革新促進事業(F/S)・H14年度同(R/D)に応募採択され、微細研削技術の実用化の検討結果、「小型ツルピング・ドレッシング装置」の商品化に結びつけた。		

No. 1 1	H 1 2 年度	藤原忠司（岩手大学工学部 教授） 佐々木秀幸（岩手県工業技術センター 主任専門研究員）、 セイナン工業(株)、コープケミカル(株)
専門分野： 環境・リサイクル		
研究シーズ： 各種廃棄物の建設材料としての有効利用		
コーディネート成果： H12年度育成試験実施後、実用化の高い「フッ化カルシウム系汚泥のコンクリート用増粘剤」への利用を主体にした育成試験を平成13年度に行い企業に技術移転を図った。平成14年度経済産業省「地域新生コンソーシアム研究開発事業」に採択され、高流動コンクリート用増粘剤、護岸ブロック等に実用化された。		

No. 1 2	H 1 2 年度	大河原正文（岩手大学工学部 助手）
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 小型自動繰り返し一面せん断試験装置の開発		
コーディネート成果： 本研究シーズから、有用特許(JST)を出願した。平成13年度JST「独創的研究成果共同育成事業」に採択され、関係企業との共同実験等で実用化された。		

No. 1 3	H 1 2 年度	安倍正人（岩手大学工学部 教授）
専門分野： 医療・福祉		
研究シーズ： 脳の血管病変の非侵襲的診断法の開発		
コーディネート成果： 本研究による特許は株式会社新興製作所と共同出願済であり、同社が事業化を目指している。なお、本研究は、平成16年度夢県土いわて戦略的研究推進事業に採択され、平成17年度経済産業省地域新規産業創造技術開発費補助金に応募準備中。		

No. 1 4	H 1 2 年度	千葉則茂（岩手大学工学部 教授）
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： 大規模森林景観のリアルタイムレンダリング法の開発		
コーディネート成果： 平成12年度の育成試験を実施し、株式会社ジェーエフピーの「デジタルランドスケープ」として商品化した。また、平成12～16年度地域提案型研究開発制度（TAO）に採択され、22本の商品ソフトの販売実績に繋がった。		

No. 1 5	H 1 2 年度	齋藤 弘（岩手大学工学部 教授）
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： 炭焼き釜のエキスパートシステム化		
コーディネート成果： H12年度の育成試験後、H13年度プラットフォーム事業（商品化・事業化可能性調査）で市場調査を実施した。平成14年国際新技術フェ		

ア2002に出展し、現在、商標登録後「炭焼き名人」として販売中である。

No. 1 6	H 1 2 年度	能登宏七（岩手大学工学部 教授）
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： 高温超電導バルク接着/消磁用超ロングパルスマグネットの開発		
コーディネート成果： 本研究シーズは、平成12年10月からの地域結集型共同研究事業に繋がった		

No. 1 7	H 1 2 年度	千葉晶彦（岩手大学工学部 助教授）
専門分野： 医療・福祉		
研究シーズ： 人工股関節およびステント型人工血管材料としてのCo基合金の開発		
コーディネート成果： 有用特許(JST)出願後、H13年度研究開発支援事業（財団単独）、H13年度経済産業省の「即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業」に採択された。平成16年度文部科学省「都市エリア産学官連携促進事業」に採択され、実用化研究を継続中である。		

No. 1 8	H 1 2 年度	吉田等明（岩手大学工学部 助教授）
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： 次世代インターネット・セキュリティー強化装置の開発		
コーディネート成果： 平成12年度育成試験を実施し、有用特許1件、育成試験による特許1件を出願した。なお、(株)アドテックシステムサイエンスと共同研究を行いながら事業化を進め、平成16年度夢県土いわて戦略的研究推進事業に採択され、実用化に向け開発中である。		

No. 1 9	H 1 2 年度	吉田等明（岩手大学工学部 助教授）
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： カオス・ニューラルネットワークによる暗号化の研究		
コーディネート成果： 上記の育成試験の研究において、カオス・ニューラルネットワークが一様性に優れた真性乱数と区別できない乱数生成システムであることを提案し、本育成試験中から特許1件を出願した。なお、支援事業の採択状況は前述（No.18）の通りである。		

No. 2 0	H 1 2 年度	氏名（所属 職名）松原和衛（岩手大学農学部・助教授）
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： 妊娠直後のウシの血清から超早期妊娠因子を含む画分を得たことによる、簡易測定法開発の可能性		
コーディネート成果： 本研究の受益者となる小岩井牧場、また研究成果の受け皿となる第		

一製薬との連携体制を作った上で、H13・H14年度・育成試験、H15年度・(財)いわて産業振興センター・研究開発支援事業で研究を実施した。

No. 2 1	H 1 2 年度	鈴木幸一 (岩手大学農学部・教授)
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： ローヤルゼリー中から、新規ペプチドを見出し、その構造を明らかにしたことと、機能についての予備的知見		
コーディネート成果： H13・H14年度・育成試験に採択し、その後H16～18年度・岩手県単独事業・夢県土いわて戦略的研究推進事業において、受け皿企業：EN大塚製薬(株)と連携しながら、免疫賦活栄養剤を目指し開発中である。		

No. 2 2	H 1 2 年度	西澤直行 (岩手大学農学部 教授)
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： 雑穀の食品機能性の解明と新健康食品の開発		
コーディネート成果： 研究成果の受け皿企業を用意した上で平成12、13年度育成試験を実施し、雑穀入り食品を商品化した。尚その際、当財団内の企業化支援コーディネータとの連携の下、デザイン業者を紹介し、商品の包装デザインを決定した(商標登録済)。		

No. 2 3	H 1 2 年度	小藤田久義 (岩手大学農学部 講師)
専門分野： 環境・リサイクル		
研究シーズ： スギ樹皮由来の生理活性化物質の機能開発		
コーディネート成果： 平成13年度研究開発支援事業(財団単独)に採り上げて研究育成するとともに、平成14年度県単事業(夢県土いわて創造研究推進事業)に応募し、採択された。		

No. 2 4	H 1 2 年度	伊藤菊一 (岩手大学農学部 助教授)
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： 植物由来の発熱制御システム		
コーディネート成果： 優れた研究成果であるので、大学内での特別経費の配分、学生の配属などを働きかけて研究推進を支援した結果、H13～16新技術・新分野創出のための基礎研究推進事業(生研機構)に採択された。		

No. 2 5	H 1 2 年度	曾我正和 (岩手県立大学ソフトウェア情報学部 教授)
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： 不正コピー防止		
コーディネート成果： 平成14年度の育成試験に採択され、本試験から特許1件を出願し		

た。また、株式会社フォラックスと共同研究を行ったが、その後、同成果を更に展開するため、大学発ベンチャー（有）シグネを設立した。

No. 26	H12年度	土井章男（岩手県立大学ソフトウェア情報学部 教授）
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： 3次元ボリュームデータの処理ソフトウェアの開発		
コーディネート成果： 平成12年度育成試験、平成13年度課題対応技術革新促進事業（F/S）及び平成14～15年度研究成果最適移転促進事業独創モデル化に採択された。また、本試験に関連し、有用特許3件を出願した。なお、同成果を展開するため、大学発ベンチャー（有）ビューテックエンジニアリングを設立した他、株式会社デジタルカルチャーテクノロジーは、本研究の応用展開ソフト「シリウス」を販売した。		

No. 27	H12年度	千田勝一（岩手医科大学医学部 教授）
専門分野： 医療・福祉		
研究シーズ： 肺成熟度判定装置（マイクロバブルカウンター）の開発		
コーディネート成果： 平成12年度育成試験を実施した。有用特許1件出願済である。更に本試験より特許1件を出願した。なお、株式会社東京マイクロデバイスから経済産業省の平成13年度地域創造技術開発補助金（補正）に応募し採択され、岩手医科大学と連携し、実用化研究を継続中である。		

No. 28	H12年度	中居賢司（岩手医科大学医学部 助教授）
専門分野： 医療・福祉		
研究シーズ： 循環器疾患の特定化研究		
コーディネート成果： 平成12, 13, 14年度の育成試験に採択された。また、同育成試験より（株）日清紡と共同出願した。		

No. 29	H12年度	中居賢司（岩手医科大学医学部 助教授）
専門分野： 医療・福祉		
研究シーズ： 体心電図マッピング装置の開発		
コーディネート成果： 実用化を目指す第1歩として、有用特許（JST）2件をコーディネートし出願した。		

No. 30	H12年度	稲葉大輔（岩手医科大学歯学部 助教授）
専門分野： 医療・福祉		
研究シーズ： 歯科領域における触診圧検出装置の開発試験		
コーディネート成果： 平成12年度の育成試験を実施した。また、本装置を歯科医師及び歯科		

<p>衛生士への適正荷重の体得訓練や、歯科医師会主催の診断基準検討会において適正荷重の確認も行った。なお、本製品は長田電機工業株式会社が実用化を図ると同時に、株式会社アオバサイエンスで需要調査を行っている。</p>		
No. 3 1	H 1 2 年度	佐藤英一（岩手医科大学教養部 助教授）
<p>専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス</p>		
<p>研究シーズ： 高光子エネルギー疑似X線レーザー発生装置</p>		
<p>コーディネート成果： 平成13、14年度の育成試験を実施し、更に平成13年度独創的研究成果共同育成事業に採択された。また、関連有用特許2件を出願した。商品化を企画している株式会社トーレックから、平成14年度第4回国際新技術フェア2002に同開発品を出展した。なお、平成16年度JST宮城プラザ可能性試験に採択され、更なる研究を継続中である。</p>		

No. 3 2	H 1 2 年度	児玉正昭（北里大学水産学部・教授）
<p>専門分野： 食品・バイオ・生化学</p>		
<p>研究シーズ： 化学構造の異なる凡て（18種類）の麻痺性貝毒を含む抗原の作成方法を発明したことによる簡易測定法開発の可能性</p>		
<p>コーディネート成果： H12育成試験を実施し、研究成果を基に国内特許及びPCT特許出願するとともに、製品化を希望する企業として、第一化学薬品（株）、（株）カザミを紹介した。</p>		

No. 3 3	H 1 2 年度	田中秀治（東北大学大学院工学研究科 助手）
<p>専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス</p>		
<p>研究シーズ： 炭化珪素の微細加工に関する研究</p>		
<p>コーディネート成果： 研究シーズ調査結果よりH12年度育成試験を実施した。この研究成果を基に、具体的課題を絞り実用化を目指している。</p>		

No. 3 4	H 1 2 年度	佐野 茂（一関工業高等専門学校 教授）
<p>専門分野： 材料・物性・基盤技術</p>		
<p>研究シーズ： ガラス粒子の鋭利度測定法</p>		
<p>コーディネート成果： 研究シーズ調査の結果、H12研究開発支援事業（財団単独）に採択した。研究成果の受け皿となる企業を探し連携体制をとった。</p>		

No. 3 5	H 1 2 年度	小田嶋次勝（一関工業高等専門学校 教授）
<p>専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス</p>		
<p>研究シーズ： オプティカルセンサーによるフッ酸濃度の自動計測化</p>		
<p>コーディネート成果： 研究シーズ調査から、H12研究開発支援事業（財団単独）に応募し採択された。受け皿の企業である（有）イハラ理研との連携体制を</p>		

つくり、中小企業総合事業団の「H13年度課題対応技術革新促進事業」に応募し採択され実用化を目指している。また、本研究は、平成16年度経済産業省コンソーシアム事業の採択に繋がった。

No. 3 6	H 1 2 年度	貝原巳樹雄（一関工業高等専門学校 助教授）
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 赤外反射分光計測における正反射光成分の除去方法の研究		
コーディネート成果： 研究シーズ調査より、H12年度研究開発支援事業（財団単独）に採択した。その成果を実用化するためにH13年度育成試験に繋いだ。現在、実用化企業を模索中である。。		

No. 3 7	H 1 2 年度	佐々木秀幸（岩手県工業技術センター 主任専門研究員）
専門分野： 環境・リサイクル		
研究シーズ： 産業廃棄物の建設材料への利用研究		
コーディネート成果： H12年度育成試験実施後、実用化の高い「フッ化カルシウム系汚泥のコンクリート用増粘剤」への利用を主体にした育成試験を平成13年度に行い企業に技術移転を図った。平成14年度経済産業省「地域新生コンソーシアム研究開発事業」に採択され、ポーラスコンクリート・高流動コンクリート用増粘剤等で実用化された。		

No. 3 8	H 1 2 年度	八代 仁（岩手大学工学部・助教授）
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 次世代型吸収式冷凍機用構造材料の防食技術を確立するために、材料の予備酸化処理および腐食抑制剤の添加により、最高温度を現行の160 から200 まで上昇させることが可能であることを示した。		
コーディネート成果： 研究成果を、日立製作所にコーディネートし、次世代吸収式冷凍機の開発のために技術移転した。		

No. 3 9	H 1 2 年度	千葉晶彦（岩手大学工学部 助教授）
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 高温で使用可能な超高弾性ばね材料の開発		
コーディネート成果： 製鋼メーカー、ばね製造メーカーと共同研究を推進し、実用化を目指している。		

No. 4 0	H 1 3 年度	新貝柳蔵（岩手大学工学部 教授）
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： 線虫の行動解析と神経系・筋肉運動関連モデル		
コーディネート成果： 科学技術振興事業団のH13バイオインフォマティクス推進事業に提案応募するようコーディネートした。		

No. 4 1	H 1 3 年度	田中秀治（東北大学大学院工学研究科 助手）
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 機能性セラミックスの微細加工の応用に関する研究		
コーディネート成果： H12年度育成試験の成果を基に、具体的に絞った課題としてH13年度育成試験に繋いだ。これらの成果の一部はNEDO基盤技術促進事業に採択された。成果の受け皿となる企業との連携で実用化を推進中。		

No. 4 2	H 1 3 年度	貝原巳樹雄（一関工業高等専門学校 助教授）
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 石炭分析試験値の簡便迅速推定装置とその方法の開発		
コーディネート成果： 平成12年度実施の「研究開発支援事業（財団単独）」の成果を基に有用特許(JST)を出願し、具体的課題をH13年度育成試験に繋いだ。現在、実用化希望企業を模索中である。		

No. 4 3	H 1 3 年度	道上 修（岩手大学工学部 教授）
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： 高品質酸化物薄膜用基板の開発		
コーディネート成果： 平成13、14年度の育成試験に採択され、有用特許2件を出願した。また、同試験から特許3件を出願し、薄膜製作のターゲット及び薄膜の製作のため、（有）鬼沢ファインプロダクトを設立した。		

No. 4 4	H 1 3 年度	佐藤英一（岩手医科大学教養部 助教授）
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： 面焦点X線管とポリキャピラリーを用いた単色X線撮影装置		
コーディネート成果： 平成13、14年度の育成試験に採択され、同育成試験より特許1件を出願した。また、株式会社トーレックが特許開示手続きを行った。		

No. 4 5	H 1 3 年度	藤田欣也（東京農工大学工学部 助教授）
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： 足踏み動作を利用した仮想空間歩行による在宅訓練装置の開発		
コーディネート成果： 平成13年度育成試験に採択され、(株)JFPが研究に参加した。		

No. 4 6	H 1 3 年度	島地重幸（岩手大学工学部 教授）
専門分野： 医療・福祉		
研究シーズ： 融接法による縫合システムの開発		
コーディネート成果： 平成13年度の育成試験及び当財団が実施する平成14年度研究開発助成事業に採択された。また、本研究に関わる有用特許1件は		

出願されている。本研究に関連する企業として、株式会社盛岡セイコーが本研究に参加した。

No. 47	H13年度	佐々木秀幸（岩手県工業技術センター 主任専門研究員）
専門分野： 環境・リサイクル		
研究シーズ： コンクリート及びアスファルト混合物への無機系産業廃棄物の利用化研究		
コーディネート成果： H12年度育成試験実施後、実用化の高い「フッ化カルシウム系汚泥のコンクリート用増粘剤」への利用を主体にした育成試験を平成13年度に行い企業に技術移転を図った。平成14年度経済産業省「地域新生コンソーシアム研究開発事業」に採択され、ポーラスコンクリート・高流動コンクリート用増粘剤等で実用化された。		

No. 48	H13年度	成田榮一（岩手大学工学部 教授）
専門分野： 環境・リサイクル		
研究シーズ： 木材の温泉水前処理に基づく活性化木炭の開発		
コーディネート成果： H12年度研究開発支援事業（財団単独）に採択し、H13年度育成試験に繋いだ。実用化のための企業を選択し、共同研究を実施した。N02と同様に原理を応用し、他の分野で実用化された。		

No. 49	H13年度	千葉晶彦（岩手大学工学部 助教授）
専門分野： 医療・福祉		
研究シーズ： 人工股関節材料としてのCo基合金の開発		
コーディネート成果： 有用特許(JST)出願後、H13年度研究開発支援事業（財団単独）、H13年度経済産業省の「即効型地域新生コンソーシアム研究開発事業」に採択された。平成16年度文部科学省「都市エリア産学官連携促進事業」に採択され、実用化研究を継続中である。		

No. 50	H13年度	土井章男（岩手県立大学ソフトウェア情報学部 教授）
専門分野： 医療・福祉		
研究シーズ： 脳外科手術のための仮想手術シミュレーションに関する研究		
コーディネート成果： 当財団が実施する平成13年度研究開発支援事業に採択され、研究を継続した。なお、本研究は、岩手医科大学脳神経外科・井上敬助手と連携しながら進められた。		

No. 51	H13年度	山下哲郎（岩手大学農学部・助教授）
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： ネコの尿中に排出される70kDaタンパク質が腎臓病診断のマーカーになることの発見		
コーディネート成果： 東北テクノアーチ(株)にコーディネートして特許出願した(国内および)		

びUS)。実施企業においてマーカの商品化を予定

No. 5 2	H 1 3 年度	大屋高德 (岩手医科大学歯学部 助教授)
専門分野： 医療・福祉		
研究シーズ： 吸収性生体材料ポリ-L-乳酸製メッシュトレーに自家骨髓海綿骨細片と多血小板血漿を用いた新しい顎骨再建法		
コーディネート成果： 当財団が実施する平成14年度研究開発支援事業に採択され、有用特許1件を出願した。なお、本試験の成果は、岩手医科大学をはじめ、国内での数例の実施効果に繋がった。		

No. 5 3	H 1 3 年度	山口勉功 (岩手大学工学部 助教授)
専門分野： 環境・リサイクル		
研究シーズ： 含銅鉄スクラップからの有価金属の分離・回収		
コーディネート成果： 研究シーズ調査結果より有用特許 (JST) を3件出願した。H14年度育成試験にて技術の確立を図り、現在、実用化企業を模索中である。		

No. 5 4	H 1 3 年度	横山隆三 (岩手大学工学部 教授)
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： 考古遺物形状のデジタル計測・図化システム		
コーディネート成果： 有用特許(JST)を出願し、H14、15年度育成試験に採択した。 成果を技術移転し、ベンチャー企業「ラング」を設立し、事業を開始している		

No. 5 5	H 1 3 年度	厚井裕司 (岩手大学工学部 教授)
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： 通信と放送の融合した最近のマルチメディアネットワークの研究		
コーディネート成果： 実用化を目指す第1歩として、先ず、有用特許(JST)制度にコーディネートし出願した。		

No. 5 6	H 1 3 年度	首藤文榮 (岩手大学農学部 教授)
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： 外因性神経細分化誘導因子として機能するボツリヌス菌菌外酵素「C3酵素」の研究		
コーディネート成果： 有用特許制度(JST)にコーディネートして出願した。		

No. 5 7	H 1 3 年度	長沢孝志 (岩手大学農学部・助教授)
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： 食品タンパク質、特にロイシンを豊富に含むキビタンパク質を消化しやす		

い形態にしたものに筋萎縮防止作用があること		
コーディネート成果： 有用特許制度(JST)にコーディネートして出願した(特願2001-246189)。		

No. 58	H13年度	長沢孝志(岩手大学農学部・助教授)
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： ソバ、エンジュ、ヤマブドウに含まれるルチンがグリケーション(タンパクの糖化)を抑制することを見出した		
コーディネート成果： コーディネートの結果、H15～17年度・夢県土いわて戦略的研究推進事業で、岩手県工業技術センター、関係企業とともに実用化を目指して研究推進中である。成果を得て出願予定		

No. 59	H13年度	伊藤芳明(岩手大学農学部・助手)
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： 地域食素材であるモロコシの生活習慣病予防効果を確認		
コーディネート成果： 同じ講座の西澤教授との共同研究として、雑穀入り食品を開発・商品化している。		

No. 60	H13年度	石井正典(岩手大学農学部 教授)
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： 溪流魚道施設の開発研究		
コーディネート成果： 平成15年度育成試験、平成16年度研究開発支援事業(財団単独)に採択した。成果を基に平成17年4月にベンチャー企業を設立した。		

No. 61	H13年度	川内浩司(北里大学水産学部 教授)
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： 魚類ホルモンに関する長年にわたる一連の研究		
コーディネート成果： 実用性のある重要な研究成果と評価し、県水産技術センターとの連携、企業による実施を含む育成計画を作成し、H14育成試験に採用した。		

No. 62	H13年度	恒川佳隆(岩手大学工学部 助教授)
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： ブロックLMS適応フィルタの超高速VLSIアーキテクチャ		
コーディネート成果： 実用化を目指す第1歩として、先ず、有用特許(JST)制度にコーディネートし出願した。		

No. 6 3	H 1 3 年度	森山俊介(北里大学水産学部・講師)
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： サケ未利用部分からのホルモンの抽出方法、および同ホルモンがエゾアワビの成長を促進することの発見		
コーディネート成果： 研究成果の三陸沿岸企業：(株)カマスイ、マリーン開発(株)による実用化を含む育成計画を作成した上で、H14、15年度・育成試験を実施した。		

No. 6 4	H 1 3 年度	原 道(岩手大学農学部 教授)
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： 植物根の吸水速度の見積方法		
コーディネート成果： 有用特許制度(JST)にコーディネートし出願した。		

No. 6 5	H 1 3 年度	高橋明義(北里大学水産学部・助教授)
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： 冷水性高級魚マツカワの陸上養殖環境(水槽の色)と体色、ホルモン分泌、成長速度に関する基礎的知見		
コーディネート成果： 実用化試験を実施する県水産技術センター、実施企業：サンロック(株)との連携体制を作った上で、H14、15年度・育成試験を実施した。		

No. 6 6	H 1 3 年度	広橋光治(千葉大学工学部 教授)
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 熱電材料・素子の新しい作製法の開発および熱電特性の評価		
コーディネート成果： 平成14育成試験に採択され特許1件出願。		

No. 6 7	H 1 3 年度	曾我正和(岩手県立大学ソフトウェア情報学部 教授)
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： ホームページ更新予告		
コーディネート成果： 平成14年度育成試験に採択され、本試験から1件特許を出願した。なお、本研究は、株式会社フォラックスと共同研究を行ったが、その後、大学発ベンチャー(有)シグネを設立し、同研究の展開を継続することとなった。		

No. 6 8	H 1 3 年度	阿久津文彦(千葉大学工学部 教授)
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 耐熱性エポキシ樹脂の実用化		
コーディネート成果： 平成14育成試験に採択され、特許2件出願。実用化企業を探索中。		

No. 69	H14年度	大坊真洋（岩手大学工学部 講師）
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： レーザーSQUID顕微鏡の開発		
コーディネート成果： 本研究は、レーザーSQUIDを用いた高感度の半導体検査用磁気検知システムを開発し、産業分野に有益なシステムを提供する。なお、本研究は地域結集型共同研究事業を経て、平成16年度夢県土いわて戦略的研究推進事業に応募し採択された。		

No. 70	H14年度	藤原忠司（岩手大学工学部 教授）
専門分野： 環境・リサイクル		
研究シーズ： 産業廃棄物のアスファルト用フィラーへの適用		
コーディネート成果： H14研究開発支援事業（財団単独）に採択した。技術的に実用化可能な結果を得たが、コスト面でのメリットがなく中断中である。		

No. 71	H14年度	登尾浩助（岩手大学農学部 助教授）
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： 周辺水環境に対する負荷を最小限にするための家畜ふん尿還元管理システム		
コーディネート成果： 有用特許(JST)制度にコーディネートし出願した。		

No. 72	H14年度	登尾浩助（岩手大学農学部 助教授）
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： 水分量が増加する土壌中における汚染物質濃度の検出		
コーディネート成果： 前項の結果と相補って実用化を目指すため、有用特許制度(JST)にコーディネートし出願した。		

No. 73	H14年度	増田友之（岩手医科大学医学部 教授）
専門分野： 医療・福祉		
研究シーズ： 生体内分子間相互作用装置を用いたがんの分子標的治療薬の開発研究：新規創薬への展開		
コーディネート成果： 研究シーズ調査結果より、H14年度育成試験に採択実施した。なお、本研究は、京都大学工学研究科合成・生物化学専攻・中谷和彦助教授（JST・PRESTO研究員）と連携、交流を行いながら進められた。		

No. 74	H14年度	千葉陽一（一関工業高等専門学校 教授）
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 高性能水蒸気凝縮型熱交換器の開発		
コーディネート成果： 研究シーズ調査結果よりH14年度研究開発支援事業（財団単独）に		

採択した。JST有用特許を出願し、実用化希望企業を選択する段階にある。

No. 7 5	H 1 4 年度	厨川常元（東北大学大学院工学研究科 助教授）
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 電気粘性流体援用マイクロ非球面研磨		
コーディネート成果： 研究シーズ調査結果より、H14年度育成試験に採択した。現在、実用化企業を模索中である。		

No. 7 6	H 1 4 年度	高 偉（東北大学大学院工学研究科 助教授）
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 大型超精密加工面形状計測のための高精度角度センサに関する研		
コーディネート成果： 研究シーズ調査結果より、H14年度育成試験に採択し実施した。なお、平成15年経済産業省地域新規産業創造技術開発費補助事業を企業より提案採択された。		

No. 7 7	H 1 4 年度	佐藤 瀏（岩手大学工学部 教授）
専門分野： 材料・物性・基盤技術		
研究シーズ： 電子材料への応用を目的とするベンゼン集積体ポリチオール類		
コーディネート成果： 有用特許(JST)を出願後、開発希望企業に特許の事前開示を行い共同研究とした。		

No. 7 8	H 1 4 年度	西山 清（岩手大学工学部 教授）
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： 時変システム同定法の実証試験		
コーディネート成果： 国際通信におけるエコーキャンセラ、データ通信における自動等価器、音響システムにおけるエコーキャンセラや音場再生および自動車などにおけるアクティブ騒音制御などにおいて、システム同定は重要である。従来、LMSアルゴリズムが広く用いられてきたが収束性が非常に遅い。今回、本研究により、H 高速アルゴリズムを導出し、時変システムの最適な追従性を付与することが可能になった。なお、本研究は、平成14年度JST技術加工に採択され、その後、平成16年度育成試験に採択実施された。また、本研究に関連し、国内特許2件、PCT特許2件が出願されている。		

No. 7 9	H 1 4 年度	雑賀 優（岩手大学農学部・教授）
専門分野： 食品・バイオ・生物分野		
研究シーズ： 東北地方などの寒冷地に適した道路法面に適した牧草品種を選定、育成した。特許出願済み		

コーディネート成果： 要望に基づき、県担当課、RSPワーキング委員会などでPRし、普及に努めた。

No. 8 0	H 1 4 年度	寿松木 章（岩手大学農学部・教授）
専門分野： 食品・バイオ・生物分野		
研究シーズ： りんご果実の品質に対する電解イオン水の影響を検討した。		
コーディネート成果： コーディネートし、東京マイクロデバイスとの共同研究を実施した。		

No. 8 1	H 1 4 年度	松原和衛（岩手大学農学部・助教授）
専門分野： 食品・バイオ・生物分野		
研究シーズ： 絶滅が危惧されている岩手地鶏を増殖するために、始原生殖細胞を利用する方法を開発		
コーディネート成果： 応用展開を図るために、小岩井農牧（株）、岩手県農業研究センターと連携して県単事業・夢県土いわて研究推進事業にコーディネートして応募し、採択された。		

No. 8 2	H 1 4 年度	太田路一（岩手大学農学部・教授）
専門分野： 食品・バイオ・生物分野		
研究シーズ： トマト球果に含まれるアビエチン酸誘導体が防虫効果を有することを発見した。		
コーディネート成果： 関係の深い荒川化学とも連絡し、防虫効果を確かめるために、H15年度・当財団研究開発支援事業に採択し、検討した。		

No. 8 3	H 1 4 年度	小藤田久義（岩手大学農学部・助教授）
専門分野： 食品・バイオ・生物分野		
研究シーズ： スギ樹皮から単離されるテルペノイド化合物のイネイモチ病菌およびリンゴ斑点落葉病菌に対する抗菌活性		
コーディネート成果： 県単独事業・夢県土いわて研究開発事業にコーディネートし、採択された。関係企業： 葛巻林業、東亜道路工業、環境エンジニアリングなど		

No. 8 4	H 1 4 年度	藤井克己（岩手大学農学部・教授）
専門分野： 食品・バイオ・生物分野		
研究シーズ： 針葉樹バーク繊維の土壌混入による土質改善		
コーディネート成果： R S P 事業主催バイオマス研究会における検討課題に採り上げ検討。環境緑化エンジニアリングと共同研究実施中。		

No. 8 5	H 1 4 年度	藤井克己（岩手大学農学部・教授）
専門分野： 食品・バイオ・生物分野		
研究シーズ： 花巻市・試験水田暗渠に廃木材チップを被覆材として使用したときの排水性能		
コーディネート成果： R S P 事業主催バイオマス研究会における検討課題に採り上げ検討。実施企業・（株）小原建設と連携。		

No. 8 6	H 1 4 年度	清水 浩（岩手大学名誉教授）
専門分野： 食品・バイオ・生物分野		
研究シーズ： 二段燃焼によりダイオキシン排出のない燃焼炉を考案し、特許出願した。和銅産業（株）で経済産業省補助金を得て試作。		
コーディネート成果： 燃焼の専門家である岩手大学工学部北野三千雄教授を紹介し、生物系産業創出のための異分野融合研究支援事業に提案した。		

No. 8 7	H 1 4 年度	清水 浩（岩手大学名誉教授）
専門分野： 食品・バイオ・生物分野		
研究シーズ： ディスポーザー処理、し尿処理などにおいて、有機固形物を液から分離し、汚物処理の負荷を軽減した上で排水浄化を行なうシステムを提案し、特許出願した。中小企業創造活動促進法による助成を得て、地元企業が該装置を試作した。		
コーディネート成果： 成果を生かすために、ワーキング委員会で紹介し、発展・普及を図った。		

No. 8 8	H 1 4 年度	児玉正昭（北里大学水産学部・教授）
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： H12年度育成試験では凡ての貝毒種から抗体をつくることができなかったが、その後、反応法を変えることによりこれが可能となった研究成果		
コーディネート成果： H15年度育成試験、H16年度研究開発支援事業（財団単独）で測定方法を確立し、（株）カザミに技術移転中である。		

No. 8 9	H 1 5 年度	道上 修（岩手大学工学部 教授）
専門分野： 情報・エレクトロニクス		
研究シーズ： スパッタ法によるナノ制御したZnO薄膜作製技術の研究		
コーディネート成果： 青色発光するGaIn、ZnO等のワイドギャップ半導体は、六方晶構造を有し、主として、六方晶系のサファイヤや半導体と同一の単結晶基板上にc軸配向したエピタキシャルの形態で使用されるため、貫通転移量が大きく左右される。 今回、サファイヤc面とは異なる原子配列面（非c面）を見出し、スパッタ法により、ZnO薄膜を制御するエピ条件を見出した。なお、		

本研究は、平成16年度育成試験に採択実施中である。

No. 9 0	H 1 5 年度	土井章男（岩手県立大学ソフトウェア情報学部）
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス、医療・福祉		
研究シーズ： くも膜下出血の早期発見及び診断支援システムの開発		
<p>コーディネート成果： くも膜下出血は、非常に死亡率の高い病気で、緊急に処置が必要である。くも膜下出血の診断には、頭部CT・MR検査が使用されるが、出血が少量の場合、医師の誤診断により、手遅れになることが問題になっている。今回、本研究により、得られたCT・MR画像から、自動的に計算機でくも膜下出血の危険度を推定する診断支援システムを構築した。なお、本研究は、平成16年度育成試験に採択実施され、国内特許1件出願し、現在、PCT特許手続き中である。</p>		

No. 9 1	H 1 5 年度	曾我正和（岩手県立大学ソフトウェア情報学部 教授）
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： セキュアプロセッサ		
<p>コーディネート成果： 公開鍵システムにおいては、個人鍵を使いやすく安全に保管するには、保管媒体としてICカードが最適である。しかし、現在のICカードは、プロセッサの計算能力が低く、個人鍵のコピーは防御するが、デジタル署名を行うときは、PCなどの計算力のある装置に個人鍵を渡して署名するため、PC側の安全性に依存するため不十分である。このような背景から、本研究により、デジタル署名作業（暗号計算）をICカード上で実施し、絶対に外部漏洩をさせないアーキテクチャーを構築した。</p> <p>なお、本研究は、平成16年度育成試験に採択実施され、国内特許1件、PCT特許1件を出願した。</p>		

No. 9 2	H 1 5 年度	佐藤成大（岩手医科大学医学部 教授）
専門分野： 医療・福祉		
研究シーズ： プロテアーゼを用いた浮遊細胞培養技術の開発		
<p>コーディネート成果： 血液細胞以外の体細胞は、一般にガラスやプラスチックなどの固相表面に接着させなければ培養することができない。そのため、細胞の大量培養には接着面積の拡大を図る担体や装置が必要である。今回、本研究により、プロテアーゼを使用することにより、特殊な装置や担体を必要としない半永久的かつ長期で大量な培養が可能であることを見出した。なお、本研究は、平成16年度育成試験に採択実施された。また、国内特許1件は出願済である。</p>		

No. 9 3	H 1 5 年度	遠藤重厚（岩手医科大学 教授）
専門分野： 医療・福祉		
研究シーズ： 新エンドトキシン組合せ定量法による敗血症の重症度判定法の開発		
コーディネート成果： 従来の血中エンドトキシン測定法は、血漿を用いている。しかし、エンドトキシンが作用するには、白血球に結合することが必須である。そのため、白血球エンドトキシンを測定する方法を考案した。当初、両者を別々に測定していたが、保健診療では一方法しか認められないため、血漿と白血球を含むものを1検体として測定する方法を考案することとした。なお、本研究は、平成15年度育成試験採択実施され、国内特許1件を出願した。また、PCT特許を申請予定している。		

No. 9 4	H 1 5 年度	千葉 史（岩手大学工学部 助手）
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： 考古遺物の効率的な三次元形状計測手法の開発		
コーディネート成果： 特許を出願した。平成15年度RSP育成試験に採択され、現在実用化されている。		

No. 9 5	H 1 5 年度	海田輝之（岩手大学工学部 教授）
専門分野： 環境・リサイクル		
研究シーズ： 畜産排せつ物の処理技術の開発		
コーディネート成果： 平成15年度R S P 育成試験に採択され、成果は企業の技術面に利用された。		

No. 9 6	H 1 5 年度	戸谷 一英（一関工業高等専門学校 助教授）
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： セルラーゼの移転・縮合活性による有用物質の酵素的合成と蛋白工学的改変		
コーディネート成果： 平成16年度「（財）さんりく基金共同研究」に採択され研究中である。		

No. 9 7	H 1 5 年度	前田武己（岩手大学農学部・助手）
専門分野： 食品・バイオ・生物分野		
研究シーズ： 家畜糞の堆肥化における窒素分の挙動について検討して得たアンモニア揮発の少ない方法についての知見		
コーディネート成果： 企業ニーズに基づき、本成果を踏まえてH15年度育成試験を実施した。企業に技術移転し、実用化した。		

No. 9 8	H 1 5 年度	小田伸一（岩手大学農学部・助教授）
専門分野： 食品・バイオ・生物分野		
研究シーズ： ミミズを残飯、古新聞紙などで飼育し、消化能力、嗜好物質の同定、糞土の資源としての評価		
コーディネート成果： ミミズ培養器の開発を行なっているKMアクト（一関市）、関連の深い小岩井農牧（株）に紹介した。		

No. 9 9	H 1 5 年度	佐藤れえ子（岩手大学農学部・助教授）
専門分野： 食品・バイオ・生物分野		
研究シーズ： 牛乳ラクトフェリンがネコの難治性口内炎（免疫不全症）に対する治療効果		
コーディネート成果： 慢性炎症に効くサプリメント開発の可能性を求めて、H 1 6 育成試験に採択した。関連企業：森永牛乳（株）		

No. 1 0 0	H 1 5 年度	重茂 克彦（岩手大学農学部・助手）
専門分野： 食品・バイオ・生物分野		
研究シーズ： ブドウ球菌食中毒の原因物質であるエンテロトキシンの市販検査キットの検出感度向上		
コーディネート成果： 実用性のあるキットを作成するために、育成試験の対象として検討したが、研究人員不足のため実現せず。		

No. 1 0 1	H 1 5 年度	山下哲郎（岩手大学農学部・助教授）
専門分野： 食品・バイオ・生物分野		
研究シーズ： ネコ尿細管から分泌されているタンパク質の構造解析		
コーディネート成果： これを利用する有用タンパク質の大量生産システムを構築するためにH 1 6 育成試験に採択した。特許出願済み		

No. 1 0 2	H 1 5 年度	高橋明義（北里大学水産学部・助教授）
専門分野： 食品・バイオ・生物分野		
研究シーズ： 水産基幹魚種の過密飼育における細菌感染に対する生理ホルモンM C Hが同M S Hの効果		
コーディネート成果： 夢県土いわて研究推進事業に提案し、採択。マツカワに続いて、サケの養殖に応用するために、県水産技術センターと連携して進めている。		

No. 1 0 3	H 1 6 年度	吉本則之（岩手大学工学部 助教授）
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： 自己組織化単分子膜による有機電界効果トランジスタのキャリア密度の制御		

<p>コーディネート成果： 代表的な有機半導体であるベンゼン、或いはC60を用いた有機薄膜電界トランジスタを作製し、そのゲート絶縁膜界面に有機自己組織化単分子膜を挟むことにより、トランジスタのキャリア密度の制御が可能であることを発見した。</p> <p>なお、本研究は、ネイチャーマテリアルスに掲載され、平成16年度JST宮城プラザ-可能性試験に採択され実施中である。</p>
--

No. 104	H16年度	船生 豊 (岩手県立大学ソフトウェア情報学部 教授)
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： 新規テラヘルツ波による生体高分子構造、生体組織構築の特性の解明		
<p>コーディネート成果： 新規テラヘルツ電磁波による生体組織構造の画像化と生体高分子の分子構造の分光学的解明を行う研究である。なお、本研究は、平成17年度(財)岩手県学術研究振興事業団学術研究推進事業に応募した。</p>		

No. 105	H16年度	蔡 大雄 (岩手県立大学ソフトウェア情報学部 助教授)
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： 高速赤外線データ放送方式及び応用システムの研究開発		
<p>コーディネート成果： 本研究は、赤外線通信に着目し、空間上に干渉のない多数受信エリアを容易に構築し、ホットスポットなど公共性の場所に、多数のアクセスポイントを提供することにより、ユビキタス社会の実現に貢献する。なお、本研究は、平成16年度夢県土いわてに採択され実施中である。</p>		

No. 106	H16年度	人見次郎 (岩手医科大学医学部 教授)
専門分野： 医療・福祉		
研究シーズ： 血管障害における血中S100A蛋白測定の意義の検討		
<p>コーディネート成果： 糖尿病・高血圧・高脂血症は心筋梗塞・脳梗塞など、全身の血管障害を引き起こす。この障害に関連するS100A蛋白は、血液中の好中球とマクロファージを産生し、炎症時に血中に放出するため、この蛋白をモニターすることにより、血管内皮障害の評価が可能となる。</p> <p>なお、本研究は平成16年度夢県土いわてに採択され実施中である。</p>		

No. 107	H16年度	澤邊 攻 (岩手大学農学部 教授)
専門分野： 環境・リサイクル		
研究シーズ： 木質粉碎物の圧縮による省エネ連続脱水装置の開発		
<p>コーディネート成果： 平成16年度「夢県土いわて戦略的研究推進事業」に採択された。実用化予定にある。</p>		

No. 108	H16年度	三浦 靖（岩手大学農学部 助教授）
専門分野： 食品・バイオ・生化学		
研究シーズ： カキ殻を用いた食品の研究開発		
コーディネート成果： 岩手大学と大船渡商工会議所との共同研究テーマとして採択され 研究中である。		

No. 109	H16年度	河田裕樹（岩手大学人文社会科学部 教授）
専門分野： 環境・リサイクル		
研究シーズ： 廃棄貝殻を利用した光触媒浄化の研究		
コーディネート成果： 岩手大学と大船渡商工会議所との共同研究テーマとして採択され 研究中である。		

No. 110	H16年度	及川桂子（岩手大学名誉教授）
専門分野： 食品・バイオ・生物分野		
研究シーズ： 鉄鋼溶出物のラットの貧血の改善効果		
コーディネート成果： RSPワーキング委員会などでPRし、鋳物製造メーカー・及源鋳 造（株）などの鉄性鋳物の普及を図った。		

No. 111	H16年度	細江達郎（岩手県立大学社会福祉学部・教授）
専門分野： 情報・エレクトロニクス・デバイス		
研究シーズ： 人それぞれがもっている「暗黙の人格観」を検査するための手順		
コーディネート成果： オンラインシステムの開発と商品化を行なっている(株)ネット ブリッジと連絡し、ワーキング委員会などで紹介してPRし、普及 を支援した。		

No. 112	H16年度	深井 高志（岩手医科大学医学部・教授）
専門分野： 医療・福祉		
研究シーズ： 光ファイバーを用いる高速大容量・病理診断システムの構築		
コーディネート成果： 岩手県の重点的プロジェクト・テラヘルツ応用の課題として、「テ ラヘルツ応用研究会」で支援していく方向で検討中		

No. 113	H16年度	佐藤 繁（北里大学水産学部・助教授）
専門分野： 食品・バイオ・生物分野		
研究シーズ： 麻痺性貝毒測定ELISAキット作成における標準物質の調整		
コーディネート成果： 本研究成果により製品化が可能となったので、技術移転先として、 (株)カザミを紹介し、共同開発することとした。		